（様式1）

自己評価票

参考様式

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
Ⅰ．理念に基づく運営						
1．理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、法人の理念に準じる。	○	理念に準じたサービスの質の向上。 利用者一人ひとりのニーズに合わせた援助。
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の入職時に、1時間かけて理念の説明を行っている。	○	入職時の説明だけでは、理念が浸透しきれていない感がある。一人ひとりの職員が、日常のケアの中で、理念に照らして物事を考える習慣をつける。そのための方法が必要
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には、事業報告書を送付している。 地域の人に対する働きかけは一切行っていない。	○	運営推進会議を有効に活用し、事業所からの発信を強めてゆく。
2．地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の草刈りに職員が参加。 日常的な関係はない。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	香取市、認知症メモリーウォークに職員2名が参加。		内部のことにしか目が向けられていない。今後は、外に目を向け、出向いてゆく必要がある。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	全く実施していない。		上記に同じ。
3．理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての実施となる。	○	今回の実施結果を振り返り、より有用な評価となるよう検討する。
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	9月に第1回目を実施。	○	次回の会議では、評価の取り組み状況の報告を行う。
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	香取市のグループホームサービス連絡会（不定期）があり、市の担当課、他のグループホーム管理者等とサービスの質の向上のための意見交換等を行っている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用の手続き中の方が1名おり、活用のための支援を行っている。。 職員が学ぶ機会は設けていない。	○	職員が制度理解するための研修の実施。

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員が学ぶ機会は設けていない。 管理職は、以前に特養で虐待が発生した経験をしているので、虐待に対する意識は高く持っている。	○	職員に対する研修の実施。
4．理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者の立場からの疑問点が解決できるように重要事項説明書の章立てと内容を考えて作成。説明時は、内容の区切りごとに「ここまででご質問はありませんか」とご家族に聞く。生活上の細かいことについて質問を想定した冊子を作成し説明している。 GHの生活の様子を写真で示して説明する冊子がほしいがまだ作成していない。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の発言や様子から意見や希望がくみ取れた場合は日常の援助記録に残すほか苦情解決規定に沿って相談、回答している。 いただいた苦情やご意見をロビー等で閲覧できるようにしたいがまだ設けていない。 改まって話を聞く場を設けたいがまだ設けていない。		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	介護職員から家族にあてて2か月に1回近況報告の手紙を書いている。ほとんどの方は月1回以上の面会があるため面会時に近況報告をしている。 体調不良時や内服変更時と回復後の報告を電話でしている。 面会が1か月以上ない場合は身の回り品の調達や季節の衣替え等の件で職員から電話しており、その際に近況報告している。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の発言や様子から意見や希望がくみ取れた場合は日常の援助記録に残すほか苦情解決規定に沿って相談、回答している。 いただいた苦情やご意見をロビー等で閲覧できるようにしたいがまだ設けていない。 改まって話を聞く場を設けたいがまだ設けていない。 運営推進協議会に出席したご家族から意見をいただいて回答している。		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング月2回（ユニット職員） 施設部会議月1回（リーダー以上）を通じ、統括ユニットリーダーが職員の意見を取りまとめ、運営会議挙げるようにしている。管理者が直接ユニットミーティングに参加し、運営の方針等を話すこともある。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ユニットミーティング月2回（ユニット職員） 施設部会議月1回（リーダー以上） 運営会議などを通して課題を挙げ取り組んでいる。		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して1年であり、入居者数の増加と共に職員の増員を図った。開設後半年ほどは、チームがまとまらず離職者が多かった。	○	開設して1年経ち、職員が定着し、安定してきたため、今後はチームワークの向上とケアの質の向上を図る。
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員は、年度での研修計画を立てている。 施設内で月に3～4回のOFF-JTを実施している。	○	off-JTが任意での受講となっているため、受講者に偏りがある。年に数回は、強制参加の内部研修が必要だと考えている。
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香取市グループホーム連絡会、年に3, 4回の実施。 香取市内のグループホーム管理者が集い、情報、意見交換等を行っている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	グループホームの建物に、職員の休憩室を併設した。 個々の悩み等に関しては、管理職が適宜相談に乗っている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ユニットリーダー、統括ユニットリーダーから、職員個々の情報を聴いており、モチベーションの波については、運営者も把握している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に際しての総合的なアセスメント面談の一環として配慮している。面談回数は必要に応じて決めている。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に際しての総合的なアセスメント面談の一環として配慮している。面談回数は必要に応じて決めている。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネジャーに連絡しニーズの確認を行ったり、相談の上他のサービスの検討も行っている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学を勧めている。（個々の事情によってはできないこともある。） 事前にショートステイでの利用を勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	決まったケアだけではなく、たわいもない会話から、その方のことを感じたりして、理解した上で関わりの質を深めている。	○	現在は、業務の忙しさで、本人と関わる時間やゆとりが無いため、時間を有効に使ってゆきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	内容によっては、家族に相談したり、一緒に考えてゆくようにしている。		生活に必要なものは、家族に依頼して用意してもらっている。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	その方の生い立ちや、家族との関係をきちんと知った上で、本人にとっても家族にとっても、より良いサービスになるようにしている。	○	家族の思いをもっと積極的に聴き、本人の日常生活に潤いをもたせられるように支援してゆきたい。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がショートステイを利用している時は、顔を合わせる時間を設けている。	○	地元の方が多いため、昔から関係のある人たちとの交流の場を大切にしてゆきたい。
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話の合う人同士、リビングの席を隣に配置するなどしている。	○	ユニットの中だけでなく、他ユニットとの交流の場も増やしてゆきたい。
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養に入居したり在宅に戻ったりしたケースがあった。それぞれその後のケアについて担当ケアマネジャーと情報交換し合うなどしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1．一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアの一環として行っている。行ったことは日常の援助記録に残している。課題は、各会議にて検討している。相談員と改めて面談を設けたいが、まだ行えていない。ユニットでは、外に出たいとか、やることがなくてつまらないという利用者の声に対して、十分に対応しきれていない。	○	自ら思いを表現できない人に対しては、十分に聴くことができていない。 もっと積極的にかかわってゆきたい。
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際しての総合的なアセスメント面談は家庭を訪問して行う。身の回り品は自宅からの持ち込みをお願いしている。担当ケアマネージャー、かかりつけ病院から情報入手している。	○	全てを直ぐに変えるのは難しいが、その人が暮らしやすい環境を一つずつ整えてゆく。
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	KOMI理論に沿って総合的なアセスメントを行っている。入居にあたり診断書の提出を義務づけている。	○	本人がどのような過ごし方を望むのかを知った上で、一人ひとりに合わせた援助を考えてゆく。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに、担当職員を付けているが、課題などがなかなか挙げられず、話し合いも不足している。	○	担当職員が、一人ひとりの利用者をより詳しく観察し、その方がどうしたいのか、どのような援助が不足しているのかを考える。また、そのことについてチームで話し合う。
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、計画的にできていない。月ごとに、利用者の変化に応じてケア方針を検討している。	○	ケア方針は、職員個々で計画して作成する。また、定期的に評価を行う。

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録、本人の話したこと等は、「場面シート」に記録している。まだ、気づきや工夫に結びつけることはできていない。	○	記録を通して、情報を共有し、ケアに活かしてゆく。
3．多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	活動や交流を広げるため、杜の家デイサービスや特養ホーム、SSのユニットへの行き来を日常的に行っている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の社会資源との交流として中学校、公民館、社会福祉協議会、民生委員などと交流している。交流は個別にも行われている。		
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	精神科のデイケアに通うための調整や申し送り、状況報告を病院MSWと行っている。		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度活用にあたり地域包括支援センターと共同した。		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科については、週1回。皮膚科については3週に1回の往診あり。状況に応じ、必要があれば外来受診している。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本多病院の精神科や大栄病院の精神科を必要に応じ、受診している。（必要のある方のみ）		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	2ユニットに一人の看護師を常時配置している。本館（特養）と連絡をとりながら、協力体制を取っている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院は、ほとんどのケースが本多病院（協力病院）週1回の往診の際に、主治医に状況を確認。早期に退院できるようアプローチしている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族とターミナルケアの面談を行った方は、現在まで一人もいない。自然に看取った方もまだいない。	○	ターミナルが近い方がいる場合は、早期に家族と面談を行い、適切なターミナルケアを実施したい。

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記47番に同じ。	○	上記に同じ。 ターミナルケアに関する研修の実施。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えのダメージがどういう形で表れてくるか現在のアセスメントから予測し、先回りしたケア方針をたてている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1．その人らしい暮らしの支援						
（1）一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや態度によっては、利用者に不快感を与えてしまっていることもあると思う。	○	敬語で声かけを行うことを徹底する。 一人ひとりへの挨拶をきちんと行う。
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の中で、本人の分かる内容で決めてもらっていることもあるが、全ての人に対してはできていない。	○	職員が決めるのではなく、本人に決められるものは決めてもらう。分からないことは職員が共に考えてゆく。
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や、起床時間など、業務を優先させてしまうところがある。ただ、その方がやりたくないことは行わず、本人の意思を尊重している。	○	時間や決まり事に縛られないような生活をしてもらえるように援助してゆきたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力もあって、行きつけの店に行く方がいる。その他の方は、施設の訪問理美容を利用してもらっている。	○	身だしなみを整えたり、おしゃれをすることで、その人らしさを表現できるよう、一人ひとりの声を聴いて対応する。
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、厨房で作ったものを大皿で各ユニットに配膳している。準備は、盛り付けと個別の配膳のみ。片付けや洗いものを、できる方にしてもらっている。		週に2回、ユニットで味噌汁を作る。（昼のみ）野菜を切ったり、出来たものの味見をしてもらっている。
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事や酒、タバコは、身体的な制限の範囲内で提供している。酒はほとんど提供できていない。		極端に制限に縛られることなく、本人の望むものは、可能な範囲で提供してゆきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
56		気持よい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の残された力を活用して、排泄ケアを行っている。その人に合った排泄アイテムや方法を決めて援助している。		オムツを使用している方もいるが、残された力を見極め、生活が快適になるよう自立支援してゆきたい。
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を行っている。一人ひとりの希望には添えていないが、入りたくない等の希望があれば、翌日にする等の調整は行っている。		入浴の時間帯が決まっている中で、その方の入浴に関する希望を聴いた上で、援助してゆく。
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休みたい時は、希望に合わせて休んでもらっている。		安心して休めるよう、室内環境を整える。（ベッドの固さ、布団、静けさなど）
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	気晴らしになるようなことは、把握しきれていない。援助できていない。	○	畑仕事が好きな人がいるので、そのための環境をつくる。その他の利用者にも、日々の生活を充実させることができるよう検討してゆく。
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持っていたいと言う場合は、持ってもらっている。しかし、お金を使う場を作る援助できていない。	○	お金を所持したり、外出して自分でお金を払うことができる場面を作る等の援助を行う。
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	十分には行えていないが、時々外に出る機会を設けている。	○	散歩したり、友達に会いに行ったりと一人ひとりの希望に合わせて援助してゆきたい。
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ほとんど出来ていない。		行きたい場所があれば、家族の協力を得るなどして、行けるよう支援してゆきたい。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その方の力に応じて、自ら電話をかけられる環境はある。		現在は、一部の方への援助しか出来ていないが、誰もが気兼ねなく行えるよう援助したい。
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	古くからの友人や、遠方から来る親戚の方など、いつでも誰でも訪問できるようにしている。	○	訪問に来た方と利用者が過ごす場所が、ユニットから遠かったり、少ないため、環境を整えてゆきたい。
（4）安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為として理解するのではなく、ナイチンゲールの看護思想の中にある「生命力の消耗を最少にする援助」というものさしに照らして考えている。	○	ケアのものさし（基準）の考え方を職員に浸透させること。
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの入口は24時間開放。建物の玄関は9:30～17:00まで解錠。居室の入口は、本人の希望が無い限り鍵はかけない。居室からテラスへ出られる窓は、ストッパーを付けている。		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の希望により、夜間居室を施錠している方もいる。また、必要以上に見回りを行わない等の配慮をしている。		他の利用者が居室に入ってしまうことがある。そのようなことが無いように配慮してゆく。

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	漂白剤など身体に害のある物以外は、日常環境の中に置いてある。		その物が置いてあることで、危険なら別の管理方法を考えてゆく。
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	開設後、転倒骨折、行方不明等のアクシデントが発生し、その都度再発予防策を新たに実施した。ヒヤリ・ハット事例に対して「インシデントレポート」の作成を職員に義務づけている。火災予防は、開設時に説明を行い、定期的に通報・避難訓練を行っている。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当については、OFF-JTで実施している。	○	年1回の実施で任意参加のため、実施回数を増やすことと、強制参加についても検討する。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員、利用者全員参加の避難訓練を年に2回実施している。地域の人々の協力を得るための働きかけはできていない。		
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	近況報告の中で暮らしを取り巻くリスクについても言及し、先回りして予防策がとれるようご家族にも一緒に方法を考えていただいている。 職員の都合で利用者を抑圧しないという視点については更なる研修教育が必要と思われる。利用者本位の視点は各職員がもっているが、GHの人員配置等の中で介護度の高い利用者に十分な対応が取れないことがあると、よい対応方法を考え出すことに行き詰ってしまうため。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護職と看護職員の連携を取り、報告・連絡・相談を強化している。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は介護職員が実施している。 時々、与薬忘れがあり、職員個々の薬に関する内容の理解は不十分である。	○	看護師から介護職員への指示の強化に努めたい。（薬の作用、副作用、注意点など）
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適宜、便秘薬や浣腸等で対応している。運動や水分摂取が不足している方もいると思われる。	○	
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々のやり方で歯磨きを援助している。	○	レクリエーション、体操、散歩等を積極的に行い、運動量をアップさせたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量を把握し、栄養バランスの取れた適切な食事を提供している。電解質を含んだアイソトニック飲料、お茶、コーヒーなど、利用者の嗜好に合わせた飲料を定時に提供している。	○	毎月BMI値をチェックし、栄養状態の変化を観察し、低栄養の方に対しては、早期に対応していく。
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	標準予防策の徹底を呼びかけているが、実践は不十分。できている職員とできていない職員がいる。各ウィルスについての知識や対応方法は、指導が行き届いていない。	○	指導が不十分である。標準予防策の目的や方法の指導を強化したい。
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や器具の洗浄と、殺菌保管の徹底。利用者の食前の手洗いとアルコール消毒を実施している。	○	地場で採れた新鮮で安全な食材を使用する。加熱温度85度で1分以上、未加熱食材の次亜塩素による殺菌を実施。（継続）
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
（1）居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の外周には、フェンスを設置している。 家族用のカードキーを用意している。（準備中）		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの入りロドアにチャイムを設置している。浴室にも応援職員を呼ぶためのチャイムがある。利用者にとっては音が不快に感じられると思う。		家庭的は雰囲気を出しきれていない。季節感を感じていただけるよう環境を整えてゆきたい。
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は少ない。	○	リビング以外の場所にも、ゆっくり過ごせる場所を作りたい。
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスを持ち込んでいる方、居室に装飾をしている方がいる。	○	もっと、その人らしさを表現できるよう、家族や本人と話して実現してゆきたい。
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜、換気を行い、居室の温度を調整している。		汚物室やトイレの臭いに対しても、消臭効果のあるものの使用を検討する。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の無い範囲内で、自由に生活が送れている。		車イスで移動する方にも、歩行する時間を設けて、日常の中に運動の援助を取り入れてゆきたい。
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの言葉を聴いて、その方の力を理解した上で、できることをしてもらっている。		その人らしさが無くならないように援助してゆく。

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	窓から見える景色には、あまり自然が感じられない。庭が活用しきれていない。	○	花や野菜など、利用者に興味を持ってもらえるような環境を作ってゆきたい。

（様式1）

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
自己評価	外部評価	タイトル	
Ⅴ．サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者がころへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 （該当する箇所を〇印で囲むこと）
自己評価	外部評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98		職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない